

3.11.4 知財活用推進室

室長 栗原 則幸 ほか17名

NICTの研究開発成果に係る知的財産権の確保とその技術移転を促進

■概要

知財活用推進室は、深い専門性を基盤に研究者との連携をより深め、発明創出から技術移転まで一貫通貫の知財サービスの提供により、適切な知財の保護と活用を推進し、自己収入の拡大及びオープンイノベーションの創出に貢献する。具体的には以下の業務を行っている。

1. 知的財産の適切な管理

- (1) 「特許検討会」における出願、審査請求、維持等の審査及びその結果を踏まえた特許庁への手続きを着実に実施する。
- (2) オープンイノベーション推進本部及び戦略的プログラムオフィスと連携し、「知的財産戦略委員会」（知財収支の適正化等の検討）の運営への協力・支援を実施する。

2. 技術移転の効果的な推進

- (1) 各研究部署担当の「技術移転コーディネータ」と研究者との二人三脚による技術移転活動を推進する。
- (2) デプロイメント推進部門と連携して、NICT発ベンチャーに対する起業支援や新たな技術移転等を実施する。
- (3) 特許の出願、登録、実施、譲渡時の補償金の支払いに係る手続きを実施する。

3. 知財法務の着実な実施

共同研究や知財実施許諾等の各種契約における企業等との交渉・調整業務を着実に実施する。

■平成29年度の成果

1. 知的財産の適切な管理

- (1) 「知的財産戦略委員会」における検討を踏まえ、出願から10年を経過した特許の再評価を着実に実施するとともに、維持条件の一部見直しを行った。
- (2) NICTの知的財産、研究データの提供、技術の活用例等の研究成果を外務Webサイト・NICT NEWS・展示会等の各種媒体・機会を活用して公開・提供・発信した。あわせて、経営企画部情報通信システム室の協力を得て論文関連ファクトデータ等を関係機関等に提供した。平成29年度の誌上発表論文件数は1,190件（自主研究の詳細は5.2参照）で、内訳を表1に示す。

2. 技術移転の効果的な推進

- (1) 平成29年度の新規有償実施契約26件（詳細は5.3.1参照）を締結するとともに、知的財産収入10,823万円を達成した。
- (2) テーブル型裸眼3Dディスプレイや有機EOポリマー材料のライセンス等により、NICTの研究成果の社会実装に貢献した（図1参照）。
- (3) 技術移転活動の活性化に向けた検討に資するため、各研究群の主要な技術移転活動の俯瞰図及び各活動のPR資料の整理・作成を進めた。

3. 知財法務の着実な実施

共同研究や知財実施許諾等の各種契約における企業等との交渉・調整業務を着実に実施した。

表1 誌上発表論文件数の内訳（発表区分別）

発表区分	区分の定義	件数
研究論文	学会が定期的に発行する学術雑誌に掲載されたオリジナル論文	367
小論文	学会が定期的に発行する学術雑誌に掲載されたオリジナル小論文、レター等	16
収録論文	学会・シンポジウム等で口頭発表後、プロシーディングとして掲載された論文	793
外部機関誌論文	公の研究機関等が編集発行する論文誌に査読過程を経て掲載された論文	14

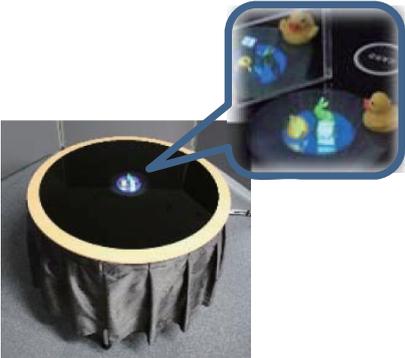
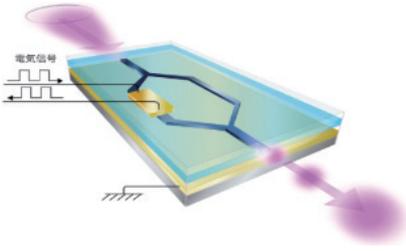
テーブル型裸眼3Dディスプレイ	有機EOポリマー材料	多言語翻訳
<p>【契機】 研究者／企業連携</p> <p>【技術移転先】 電子機器メーカー</p> <p>【概要】 曲面スクリーン上に立体像を表示する裸眼3Dディスプレイを開発。光線密度を従来比3.5倍と高め、浮遊感を向上させ、よりリアルな立体像表示を可能とした。この裸眼3Dディスプレイでは、複数の人が裸眼のまま、360度方向からそれぞれの視点に対応した立体像を観ることができる。</p> 	<p>【契機】 研究者／企業連携</p> <p>【技術移転先】 化学材料メーカー</p> <p>【概要】 高速性と低消費電力性を両立する新しい光デバイスを実現する材料として有機EOポリマーが有望視されている。有機EOポリマーを使った光デバイスの開発に向け、既に技術移転済の有機EO化合物のポリマーの供給元を創出するために、化学材料メーカー2社に技術移転した。</p> 	<p>【契機】 研究者／企業連携</p> <p>【技術移転先】 翻訳技術開発企業</p> <p>【概要】 NICTの高精度音声認識・翻訳・音声合成技術は、スマートフォン等で利用可能なアプリとして観光、商業施設、医療分野等で利用。現在対応可能な言語数は31言語まで拡大。翻訳システムを必要とする企業や、特許等の文献翻訳会社等でも活用。</p> 

図1 平成29年度 技術移転例

3
● オープンイノベーション推進本部